

「心が生きる教育のための国際拠点」グローバル COE ワークショップ

## 「メディア文化政策における《博覧の世紀》の可能性」

(グローバル COE ユニットB & 科研費基盤B「ソフト・パワー構築に向けたメディア文化政策の国際比較研究(代表・佐藤卓己)」共催・公開ワークショップ)

- 日 時:2009 年 10 月 23 日(金)17:30~20:00
- 場 所:京都大学大学院教育学研究科 烏丸キャンパス  
京都市下京区五条通烏丸西入醍醐町 284 YMC 烏丸五条ビル 7F  
(地下鉄烏丸線「五条駅」2 番出口の前)
- 参 加:事前申し込み不要、入場無料
- 企 画:佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科)
- 司 会:佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科准教授)
- 報告者:森明子(国立民族博物館教授)  
白戸健一郎(京都大学大学院生涯教育学講座)  
松永智子(京都大学大学院生涯教育学講座)
- 応答者:福間良明(立命館大学産業社会学部准教授)  
難波功士(関西学院大学社会学部教授)  
谷本奈穂(関西大学総合情報学部准教授)
- 連絡先:京都大学大学院教育学研究科・佐藤卓己宛てメール  
[tsato@educ.kyoto-u.ac.jp](mailto:tsato@educ.kyoto-u.ac.jp)
- 関連資料:①福間良明・難波功士・谷本奈穂編 『[博覧の世紀:消費/ナショナリティ/メディア](#)』(梓出版社:2009 年)

良好な国際関係を築くうえで、軍事力などのハード・パワーではなく、文化の発信に基づくソフト・パワーの重要性が近年ますます高まっている。こうした潮流の中で、グローバル時代のメディア教育や情報教育が、ソフト・パワー構築に不可欠であることは言うまでもない。こうしたメディア文化政策の系譜を検討する場合、博覧会というメディアはその象徴性や社会に与える影響力から見て、重要な切り口となるだろう。

本ワークショップでは、共同研究『博覧の世紀：消費/ナショナリティ/メディア』（梓出版社：2009 年）をまとめた編者をお招きし、討議を通じて「博覧会というメディア」研究の可能性を考えたい。同書はメディア研究、社会学、歴史学、政治学、宗教学、サブカルチャーなどの視点から特に地方博覧会に焦点をあて、近代日本の「博覧」体験の全体像を示そうとした野心的な研究である。企業広告、パヴィリオン、家庭電化、洋服、「食」と百貨店物産展、宗教、コンパニオン、アニメ、オタク、植民地主義と大衆芸能、北海道、国防科学技術、聖戦など、まなざし、まなざされる時代の感性が読み解かれている。

討論者としては、1970 年大阪万国博覧会会場にある国立民族博物館研究戦略センターの

森明子先生をお招きする。都市の文化人類学を専門とされる立場から、グローバルな視点で「博覧の世紀」を再検討していただく。また、2009年度研究開発コロキウム「越境する文化政策」の中心メンバーである大学院生にもパネラーとして討論の口火を切ってもらいたい。以上のパネル討議をふまえて、参加者全員で「博覧の世紀」とは何か、その文化政策の可能性とは何かを考えてゆきたいと思います。